

## はじめに

「研究ってなんですかのさだろう？」研究主任が研究推進委員会でぼそっとつぶやきました。業務改善、働き方改革が叫ばれる中で、“研究”を行う意味について語り合いたくなったのかも知れません。

昔話をするようになったら……と言われてますが、ちょっとお耳を拝借。

20年程前、私は、“研究”が一番苦手でした。「特別活動大好き！」「学級担任絶対したい！」と思っていました。皆さんは、今の私からは想像ができませんよね。中教研をはじめ様々なところで公開授業をしたり、研究発表をしたりはしていましたが、それは誰かがしなきゃいけないんだから仕方ないかなあという気持ちからでした。もちろん、尊敬する先輩方からたくさん御指導を頂いて勉強にもなったし、反省事項も含めて達成感もありましたが、消極的で後ろ向きな気持ちだったと思います。

そんな私が変わったのは、当時勤めていた学校の校長先生の言葉がきっかけでした。「高橋さんは、よい授業をするためには、学級指導が大事だと思っているだろう。でも、実は、授業から学級を変えることもできるんだぞ。授業ってというのは、実に奥が深い。」当時の私は、「本当ですか？学級指導は大事だと思うのですが……。」と口答えしてました。今なら、「本当にそうですよね。子供たちが目を輝かせて前のめりになる授業ができれば、学級に“荒れ”は生じませんよね。」と応えることができます。なかなかそんな授業はできませんが、たま～にそんな子供たちの姿を見ることができると、最高の幸せを感じていました。「学級指導・生徒指導」と「授業」は、どちらが先でどちらが後ではないのです。子供が目を輝かせて頭に汗をかき学んでいる姿を求めて「授業研究」を始めると、研究も楽しくなっていきました。子供の興味が気になり、授業のアイデアが浮かぶようになってきました。そして、“学ぶ”ということにおいては、子供も大人も一緒！という気持ちになりました。子供に学ぶ大切さと素晴らしさを語るならば、私自身も“学び手”として存在していたいと思うようになり、今日まで来ました。「学び続ける教師」が私の目標でした。

安居中の先生方においても、この人数でこれだけの成果を残すことができたのは、先生方の志の高さとチームワーク、そして誠実に研究に取り組む姿の賜なのだと思います。学び続ける教師の集団が、この安居中学校にはあるのです。校長として最高に嬉しく、幸せなことです。

今年度の本校の研究も、竹内恭平先生が研究主任1年目とは思えない緻密で大胆なリーダーシップを発揮し、研究主題「Agencyを育む学び～『共に創る』とは～」のもと、素晴らしい成果を残してくれました。安居中学校の10年を振り返り、未来の安居中学校への思いを全校で考える半年をかけたカリキュラム、その内で語られる子供たちの「学校」

というものへの気づきや願いの言葉に私は感動でいっぱいになっていました。3/6に行われた「生徒と教師による次年度に向けた『スクールプラン』の振り返り」も、学校を「共に創る」一員として真摯に議論され、成果も課題も表出し、次年度の安居中学校が楽しみになりました。同じ日に行われた「My Learning」のことは、私は生涯忘れません。語られる生徒の言葉に心が震え、この学校の校長でいられた幸せに包まれていました。「一人一人に学びの物語がある」教員人生の目標として掲げていたことを先生方と子供たちが現実のものとして見せてくれました。心から感謝しています。

独立分離10周年の節となる令和4年度「研究紀要」には、「共に創る学校づくり」に対する実践や今年度の研究の足跡が記されています。先生方の授業に対する思いと分析、実践はもとより、総合を中心としたプロジェクト学習についても是非注目してください。プロジェクト学習部会を牽引してくれた川端康誉先生を中心に、子供たちを支える先生方の探究者としての姿が記されています。この宝を読み直し、安居中学校の更なる躍進と自分の成長の糧にしていってください。これからも、邁進あるのみ!

最後になりましたが、本校の研究の推進に対しまして、福井市教育委員会、福井大学連合教職大学院をはじめ、秋田喜代美先生、荒瀬克己先生、地域の方々等多くの皆様に、御指導、御助言、御支援を賜りましたこと、この場をお借りいたしまして、心より感謝申し上げます。

令和5年3月

福井市安居中学校 校長 高橋和代